

# JODCニュース

Japan Oceanographic  
Data Center

No. 51

September 1995



- JODC所長挨拶 p.1
- JODCのWWWサーバ紹介 p.2
- 会議開催報告・案内 p.5
- データセット紹介 p.8
- 海の相談室だより p.9
- IOC刊行物・文書保管センターから p.10
- TOPICS & INFORMATION p.11
- JODC刊行物一覧 p.14

日本海洋データセンター  
(海上保安庁水路部)

## JODC 所長挨拶

### 着任ご挨拶



最近の国力増進のお陰によって、水路部の測量船も新しく、大きくなっています。内部の機器も高度になっていますが、この状況は国内の各海洋観測機関におかれましても同様であろうかと推察いたします。

私が、水路部に入りました頃の測量船は小さく、居室も狭く、また機器についても、大変貧しいものでありました。

用いられる船や機器がどのようなものであっても得られたデータは乗組員と観測員の努力の結晶であり貴重なものです。特に夜間ワッチの眠さを耐えることや強風下の航行での船酔の苦しさは経験したものでなければわからないことでしょう。

このような人間的苦しさは、計算不能のものでありますが、船の建造費・耐用年数、人員・機材のコストと、得られたデータ数を比較してみればデータの貴重さは大変大きいものです。更に観測の時間ファクターがこれに加わり、価値は益々大きいものとなります。

このように貴重なものですから、得られたデータが当事者によって使用されることは当然であります。その後の二次利用について海洋開発審議会等で、有効活用とデータセンターの活動について強調されたことは当然のことです。

データセンターは観測機関のご協力によりデータを提供して頂き、フィードバックとしてのサービスを行うと共に、国内のユーザ、また国際ユーザのために、交換の節点となるものです。

緑の下の力持ちのように地味な仕事ではありますが、今年度末に今話題となっているインターネットが本格運用に入ります。これなども用いて、各機関のお役に立てれば幸いです。

今後、益々のご協力をお願いいたします。

日本海洋データセンター所長  
辰野 忠夫

### Roles of the JODC

I was appointed as the director of the JODC in April of this year. In Japan, usually in the beginning of April, there occurs many job rotations.

First, let me introduce myself. I entered the Hydrographic Department in 1967. First I was assigned to the Survey Division, then to the Maritime Safety Academy. After that, in 1979 I joined the JODC. In 1986 I left the JODC and experienced two Regional Headquarters of the Hydrographic Department, and returned to the JODC this year.

The JODC has roles of collecting, processing, providing and archiving oceanographic data. Users of the oceanographic data are both domestic and international.

Services of the Data Center are given to these users through international frameworks. They are IOC/IODE System, bilateral frameworks, multilateral frameworks and so on.

The IOC/IODE system is treated as most important activities, including data exchange with WDC and NODCs in the WESTPAC region etc. RNODC activities are also important in JODC, including collection and dissemination of information, data management training and data collection, processing and so on.

I hope these activities of the JODC will be carried out sufficiently by cooperation of international bodies and relevant foreign organizations, and become fruitful for oceanographic data users.

Director, JODC  
Tadao Tatsuno

# JODC の WWW サーバ・ホームページ紹介

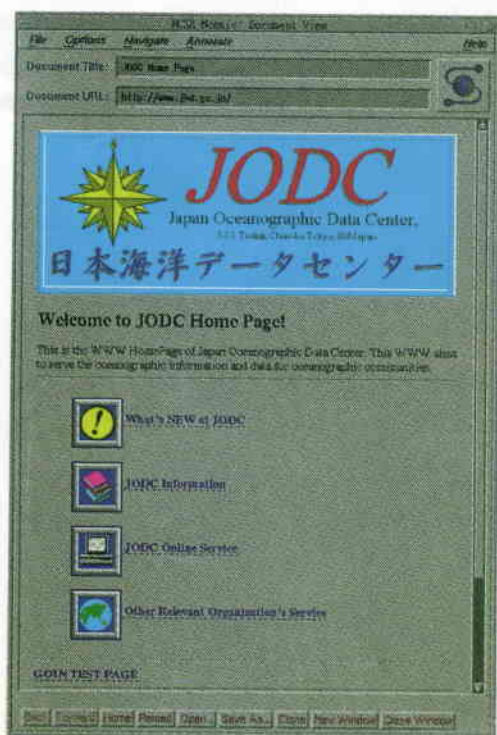
## 1. はじめに

オンラインデータ・情報交換の普及に伴い、日本海洋データセンター (JODC) では、国内外の利用者がインターネットを通じて、JODC が保有する海洋データ及び情報を取得できるシステムを開発したので紹介します。

本システムは、平成7年3月から試験的に運用していましたが、同年9月より一般に公開することにしました。ただし、データのダウンロード機能については、利用の制限が設けられています。

## 2. JODC ホームページ

JODC ホームページは画面1のとおりです。



画面1

本ホームページは、以下の4つのメインメニューから構成されています。

### 1) 新しい情報 (What's NEW at JODC)

本メニューは会議予定、新着データ、新刊行物、トピックスのサブメニューにリンクされています。

#### ①会議予定 (Event & Meeting Schedules)

国内海洋関係会議、IOC 関係会議、GOOS 活動等の情報が登録されています。

#### ②新着データ (New Data)

新たに受領したデータ (特に CD-ROM) の紹介及び1年間に JODC が受領したデータ一覧表が登録されています。

#### ③新刊行物 (New Publications)

JODC が新たに発行した刊行物の紹介記事及び1年間に JODC が受領した刊行物一覧を掲載しています。

#### ④トピックス (Topics)

国内外の海洋に関するトピックス的な記事を掲載しています。

## 2) JODC 紹介 (JODC Information)

本メニューは、「日本海洋データセンター利用の手引き」に基づき、JODC 紹介に関する情報を次の9サブメニューにリンクされています。

#### ①組織図 (Organization & Staff)

JODC 組織及び職員名を図で紹介。

#### ②情報管理 (Information Management)

海洋調査計画、海洋調査報告、データ・情報所在情報管理等に関する紹介記事。

#### ③データ管理 (Data Management)

保有データの紹介とファイルフォーマット。

#### ④国際活動 (International Activities)

国際的データ管理と JODC の関与説明。

#### ⑤調査・研究プロジェクト (S & R Projects)

国内外のプロジェクトと JODC の関与説明。

#### ⑥ JODC 刊行物 (JODC Publications)

JODC の定期・不定期刊行物紹介。

#### ⑦ JODC へのアクセス (How to access JODC)

JODC へのアクセス方法について。

#### ⑧ JODC 周辺地図 (Map around JODC)

来訪者のための周辺地図。

#### ⑨ 国内関係海洋調査・研究機関 (Marine Research Institutes and Organization)

関係機関名、住所、Tel、Fax、主な調査項目一覧。

### 3) オンライン提供 (JODC Online Service)

このメニューが、JODC WWW サーバの中核であり、国内海洋調査計画をオンラインでの参照、各層観測データ (CTD、STD、各層汚染を含む) のカタログ検索と実データのダウンロード (ftp 転送)、BT 観測データのカタログ検索、海流観測データのカタログ検索及び潮位観測データのカタログ検索が出来ます。

JODC データ利用者は、今までは利用申し込みからデータ入手まで、数週間要していましたが、各層観測データにつきましては WS の前に居ながら数秒間の内に所要のデータを手に入れることが可能になりました。その他のデータについては、現在カタログ情報のみですが、平成7年度末までには実データのダウンロードが可能に成ります。

#### ①国内海洋調査計画

##### (National Oceanographic Programmes)

本情報は、従来刊行物「国内海洋調査一覧」で公表していますが、迅速な公表のために利用者がインターネットから参照出来るようにしました。

検索画面は、画面2とほとんど同じに作られており、観測年、機関コード、船コード、海域コード、観測範囲(緯度、経度)、観測項目を検索キーとして必要な情報をデータベースから抽出して参照出来ます。実際に検索する場合は、検索項目の左に有る矩形をクリックして下さい(以下同様)。

#### ②各層観測データ (Serial Station Data)

このメニューは、各層観測データの概要、ファイルフォーマット説明、全データ測点図及びデータ検索にリンクされています。

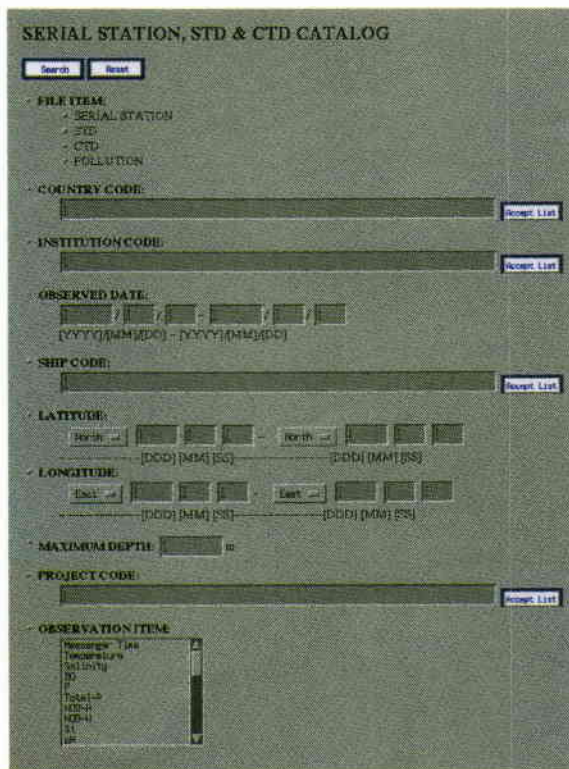
特記すべきことは、情報、図面またはカタログの参照のみならず各層の実データを利用者のWSにダウンロード出来ることです。

そのフォーマットは、JODC フォーマットでファイルフォーマット説明にある通りです。これらのファイルは検索後 ftp により各自のWSにロードすることになります。

画面2が検索画面です。データは各層、STD、CTD 及び各層汚染に分かれており必要とするデータファイルを選択します。その後、国コー

ド、機関コード、観測期間、船コード、観測範囲(緯度、経度)、観測深度、プロジェクトコード、観測項目の任意の検索キーの組み合わせにより、データベースから実データを検索することが出来ます。コードが不明な場合は Accept List をクリックするとコード表が表示されますので、その表から該当するコードをクリック出来ます(複数の場合は Ctrl キーを押しながら選択して下さい)。

必要なら検索結果の測点図を画面に表示させることも出来ます。検索データを各自のWSに取り込むには、標準形式か圧縮形式かを指示して ftp をクリックすると JODC フォーマットでデータが JODC の ftp にユニークな名前を持ったファイルとして抽出されますので各自取り込むことが出来ます。



画面2

その他このメニューの下には、日本近海における1月の平均水温図が格納されています。

#### ③ BT 観測データ (BT Data)

このメニューは、各層と同様に BT データの概説、ファイルフォーマット説明、全データ測点図、BT データカタログ検索及び 0 m 並びに 100 m 層の日本近海月別平均水温図の動画から成っています。

BT データカタログ検索キーは、ファイル選択(MBT、XBT、DBT、AXBT 複数選択可)、国コード、機関コード、観測期間、船コード、観測範囲(緯度、経度)、プロジェクトコードから成っており、任意の組み合わせによって検索出来ます。検索結果の測点図の表示も可能です。

#### ④海流観測データ

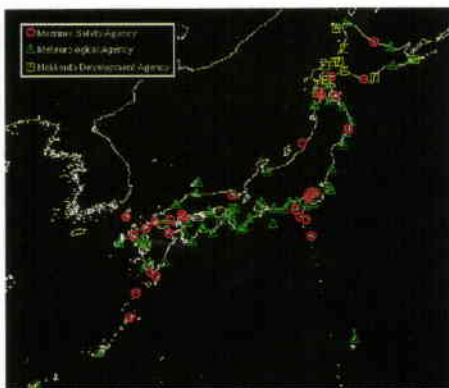
##### (Ocean Surface Current Data)

このメニューは、各層・BT と同様に海流データの概説、ファイルフォーマット説明、全データ測点図、海流データカタログ検索から成っています。

海流データカタログ検索キーは、ファイル選択(GEK、DRIFT、ADCP 複数選択可)、国コード、機関コード、観測期間、船コード、観測範囲(緯度、経度)、プロジェクトコードから成っており、任意の組み合わせによって検索出来ます。検索結果の測点図の表示も可能です。

#### ⑤潮位観測データ (Sea Level Data)

このメニューは、上記データと同様に潮位データの概説、ファイルフォーマット説明、観測点の位置図、及び潮位データカタログ検索から成っています。画面 3 は観測点位置図です。



画面 3

潮位データカタログ検索キーは、験潮所名、観測期間、観測範囲(緯度、経度)から成っています。因みに、登録験潮所は海上保安庁 31ヶ所、気象庁 67ヶ所、北海道開発庁 11ヶ所です。

#### 4) 関連機関への接続

##### (Other Relevant Organization's Service)

このメニューから国内、国外の関連機関、並びに国際海洋調査・研究プロジェクト、幾つかの WWW Virtual Library へのリンクが可能です。例えば、国内関連機関では、海洋研、地質調査所、JAMSTEC、CRL、NASDA、NTT 等が登録されています。また国外に関しては米、英、豪等の海洋データセンター、NOAA の各種データセンターへリンクされています。国際プロジェクトについては、GLOBEC、JGOFS、TOGA、WOCE 等へつながっています。

#### 3. 将来構想

平成 6 年度で上記のシステムを構築しましたが、多くの実データ・情報をオンラインで提供出来るように、平成 7 年度に次の 19 項目の拡充を予定しています。

- ① BT 実データの提供
- ② 海流実データの提供
- ③ 潮位実データの提供
- ④ 連続 ADCP データインベントリー検索
- ⑤ 連続 CTD データインベントリー検索
- ⑥ 係留系流速データインベントリー検索
- ⑦ 海底設置型観測機器情報検索
- ⑧ 3 次メッシュ水深データの提供
- ⑨ CSR (航海報告) の検索
- ⑩ 水温統計表示
- ⑪ 塩分統計表示
- ⑫ 海流統計表示
- ⑬ 潮位統計表示
- ⑭ 波浪統計表示
- ⑮ 電子掲示板開設
- ⑯ 海洋略語辞典検索
- ⑰ 生物データの提供
- ⑱ 波浪データの提供
- ⑲ IOC 文書検索

#### 4. おわりに

JODC の WWW サーバアドレスは

[<http://www.jhd.go.jp/>]

です。是非一度アクセスしてみてください。感想を送って下されば幸いです。

E-mail アドレスは巻末を御参照下さい。

## 会議開催報告・案内

### 海洋資料交換国内連絡会 第24回会議開催

海洋資料交換国内連絡会は、IOCの国際海洋データ・情報交換システム（IODE）にかかる諸問題について、検討を行なうため毎年1回開催しているもので、第24回会議を平成7年3月16日（木）に水路部中会議室で開催しました。その概要について報告します。

#### 1. JODCからの報告

(1) 平成6年度JODC活動報告及び平成7年度活動計画

(2) オンラインデータ・情報交換システムについて

JODCが開発した海洋データ・管理検索システム「J-DARS」（JODC-Oceanographic Data Archiving and Retrieving System）を中心に、将来におけるJODCのオンラインデータ・情報交換システムについて報告しました。

(3) 海底設置型等の海洋観測機器の情報提供業務の開始について

海底設置型等の海洋観測機器による海洋調査は近年ますます増加の傾向にあるため、JODCが設置状況に関する情報提供サービスを平成7年1月から開始したことについて報告しました。

(4) 地域海洋情報整備推進事業、所在情報管理システムについて

近年の海洋の利用・開発の進展や海洋レジャーの普及に伴う各種海洋情報の需要増大に的確に対応するための基盤整備として、JODCでは地域における海洋（自然）情報の所在情報の収集・整備を中心とする「地域海洋情報整備推進事業」を進めていることについて報告しました。

#### 2. 参加機関からの報告

東京大学海洋研究所から「海洋観測国際共同研究ニュースレター」が配布され、世界海洋観測システム（GOOS）プロジェクトの概要説明がなされました。

#### 3. 会議での討議

(1) 日本水産資源保護協会より、オンラインデータ・情報交換システムに関して、データを提供する場合のユーザの制限について質問があり、次の二点について事務局から回答しました。

第一に、データ量に応じ制限をつける。これはJOIDESのユーザに提供する場合に生じる問題であり、JOIDESの使用回線はアナログ回線（9600 bps）であることから、大容量のデータの流通には適さないためにデータ量を制限する必要がある。

第二に、相互交換ユーザかどうかで制限をつける。JODCのデータは基本的に相互交換であるため、相互交換を実施しているユーザ及び公的機関については制限をつけない予定であるが、民間等の相互交換を実施していないユーザについては何らかの制限を加える予定である。

(2) 工業技術院より、海底設置型等の海洋観測機器の情報提供業務に関して、観測機器の破損等のトラブルが生じた場合のJODCの対応について質問があり、JODCは観測機器の設置位置情報等をオンライン等で管理・提供するのみで、観測機器の保護に関する指導等は行わないと回答しました。

また、海上保安庁水路部海洋調査課長から次の二点について意見がありました。

第一に、今後海洋法条約の批准に伴い沿岸国による200海里海域の管理が必要となるため、200海里内にある海底設置型海洋観測機器の付近で外国海洋調査船が他の観測機器を破損した場合に問題となることから、設置場所に関する情報を沿岸国が管理する必要が生じてくる。

第二に、この種の情報の管理としては海上保安庁水路部が行うべきであり、トラブル発生時の問題については、JODCだけの問題ではなく、海上保安庁全体及び水産庁等関係各機関において、更なる調整が必要になってくる。

この件に関し、水産庁研究部から、トラブルの件についてはもう少し責任体制を明確にしてもらいたいとの要望が出されました。

その他、「省際ネットワークにおける各省庁間でのユーザーの制限」および「GOOSプロジェクトの進捗状況」について討議されました。

## 平成7年度地域海洋情報 整備推進委員会開催

平成7年6月15日に海上保安庁水路部内の大会議室において、平成7年度地域海洋情報整備推進委員会が開催されました。



開会の挨拶をする水路部長  
右隣は奈須委員長

海上保安庁水路部として昭和62年度より平成6年度に至る8年間において、24の地域に区分された全国の沿岸海域についての海洋情報の整備を進めてきた本地域海洋情報整備推進事業も、6年度をもって最後の3海域（伊豆・小笠原、九州西部、山陰沿岸）についての情報整備作業が終了し、委員会の開催も本年度が最後となりました。

委員会当日は、当委員会委員長である奈須紀幸東京大学名誉教授をはじめ民間、大学及び関係省庁より当委員会委員の方々に出席していただき、平成6年度事業報告及び本事業の8年間の総括的まとめと評価や今後の事業運営方針に対する意見の交換等の議題について討議が進められました。



会議風景

### 1. 6年度事業報告と所在情報管理システムのデモンストレーション

水路部による前回議事録の確認の後、海洋産業研究会によって6年度地域海洋情報整備作業報告が行われ、6年度に整備された3海域（伊豆・小笠原、九州西部、山陰沿岸）のそれぞれについて、情報の集積度の評価や資料内容の傾向等について説明がなされた他、8ヶ年に及ぶ本事業の総括的評価についても意見が出されました。

また、パソコンの画面をスクリーン上に映して、所在情報管理システムのデモンストレーションが行われました。

### 2. フォローアップ事業計画について

今後は、当庁水路部により各海域毎に隔年で行われるフォローアップ作業によって、全海域の海洋情報のデータの更新が行われて行くことが確認された他、事務局である本庁水路部からもこれまでの事業に対する総括的評価と今後の運営方針についての説明がありました。

### 3. 委員による意見の交換

最後の委員会となる本委員会において、各委員より事業の総括的な評価と今後に向けての意見等が次のように交わされました。

- ・8年間の事業の成果として全国の海域を網羅したデータベースが整ったことは非常に意義があり、また、立派な成果ができあがったと思う。
- ・今後も、現在所有している資料を基により広く情報の収集に努めてデータベースとしての完成度を高めていって欲しい。
- ・所在管理システムについて、OA機器の性能の向上に合わせて必要に応じてシステムの向上を図るべきである。

すべての海域についての情報整備作業は完了したものの、海上保安庁水路部として、今後は独自にフォローアップ作業を推し進めてデータの更新に努めて参りますので、関係各機関の皆様におかれましては調査票の記入等の情報収集に対してご協力の程をお願いいたします。

## WOCE 第8回 データプロダクト委員会報告

WOCE (世界海洋循環実験計画) の第8回データプロダクト委員会は、アメリカ合衆国フロリダ州タラハッシー市にあるフロリダ州立大学で開催されました。

データプロダクト委員会は WOCE のデータセンター (DAC や SAC など) の連携や、WOCE のデータから一般的に役立つデータプロダクト (例えばアトラス、グリッド化プロダクト、データレポートなど) などについて検討します。現在、WOCE には 13 のデータ・情報の流れがあります。これらは、メタデータ、ハイドログラフィ、ドリフター、フロート、上層熱量、表層塩分、海水準、流速計、表面気象、大気海洋フラックス、水深、ADCP、衛星データプロダクトです。WOCE にはモデルの成果を管理する公式な機

関はまだ設立されていませんが、モデル出力が利用できるかどうかはデータプロダクト委員会がモニターしています。

今回の会合では、WOCE の解析フェーズのために高品質のデータと情報を効率的に作り出すよう WOCE データ管理のための複雑な連携機構が機能しているかどうかを監視するとともに、個々の調査者から WOCE へのデータフローの改善、DAC/SAC の WOCE 研究のための業務の効率性と効果の改善、解析フェーズを成功させるために必要なデータプロダクトが研究者に利用可能となるようにすることなどを議論しました。

主任研究者から提出されたデータを広く利用できるようにするために、本委員会の前回会合では DAC/SAC が WWW ホーム ページを設けるよう勧告しましたが、第8回会合までに以下のサイトから WWW によりデータ、情報、プロダクトを取り出すことができるようになりました。

インターネットアドレス	サイト名	インターネットアドレス	サイト名
<a href="http://www.cms.udel.edu/">http://www.cms.udel.edu/</a>	WOCE Data Information Unit	<a href="http://biudc.nbi.ac.uk/psmsl/sea_level.html">http://biudc.nbi.ac.uk/psmsl/sea_level.html</a>	Sea Level Data Archive
<a href="http://www.nwo.ac.uk/iosdl/Other/woceipo/ipo.html">http://www.nwo.ac.uk/iosdl/Other/woceipo/ipo.html</a>	WOCE IPO	<a href="http://gopher://gopher.whoi.edu/11/WHOI-databases/">gopher://gopher.whoi.edu/11/WHOI-databases/</a>	WOCE Float DAC
<a href="http://www.access.digex.net/~woce/">http://www.access.digex.net/~woce/</a>	U.S. WOCE Interagency Office	<a href="http://tethys.oce.orst.edu/cmdac.html">http://tethys.oce.orst.edu/cmdac.html</a>	Current Meter DAC
<a href="http://www-ocean.tamu.edu/WOCE/uswoce.html">http://www-ocean.tamu.edu/WOCE/uswoce.html</a>	U.S. WOCE Office	<a href="http://topex-www.jpl.nasa.gov/">http://topex-www.jpl.nasa.gov/</a>	JPL Topex/Poseidon Data
<a href="http://whpo.whoi.edu/">http://whpo.whoi.edu/</a>	WHP Office	<a href="http://sst-www.jpl.nasa.gov/">http://sst-www.jpl.nasa.gov/</a>	NOAA/NASA AVHRR Data
<a href="http://www.dkrz.de/~u241046/">http://www.dkrz.de/~u241046/</a>	WHP Special Analysis Center	<a href="http://www.coaps.fsu.edu/">http://www.coaps.fsu.edu/</a>	Surface Meteorology DAC
<a href="http://larry.aoml.erl.gov:8000/www/drifter.html">http://larry.aoml.erl.gov:8000/www/drifter.html</a>	Drifter DAC	<a href="http://www.coaps.fsu.edu/">http://www.coaps.fsu.edu/</a>	Air-Sea Flux Special
<a href="http://192.139.141.30/med/medsprog/RNODC.html">http://192.139.141.30/med/medsprog/RNODC.html</a>	RNODC for Drifting Buoys		Analysis Center
<a href="http://192.139.141.30/med/meds.html">http://192.139.141.30/med/meds.html</a>	UOT Real-time Data Assembly	<a href="http://www.ngdc.noaa.gov/ngdc.html">http://www.ngdc.noaa.gov/ngdc.html</a>	WOCE bathymetry
<a href="http://www.nodc.noaa.gov/GTSP/gtsp_home.html">http://www.nodc.noaa.gov/GTSP/gtsp_home.html</a>	Delayed-mode Data Assembly	<a href="ftp://kapau.soest.hawaii.edu/pub/adcp">ftp://kapau.soest.hawaii.edu/pub/adcp</a>	ADCP Data Online
<a href="http://larry.aoml.erl.gov:8000/www/phod.html">http://larry.aoml.erl.gov:8000/www/phod.html</a>	UOT Science QC Center-Atlantic	<a href="http://www.nodc.noaa.gov/">http://www.nodc.noaa.gov/</a>	World Data Center
<a href="http://jedac2.ucsd.edu/jedac.html">http://jedac2.ucsd.edu/jedac.html</a>	UOT Science QC Center-Pacific	<a href="http://www.access.digex.net/~woce/dpc.html">http://www.access.digex.net/~woce/dpc.html</a>	WOCE Data Products Committee
<a href="http://www.aodc.gov.au/AODC.html">http://www.aodc.gov.au/AODC.html</a>	UOT Science QC Center-Indian	<a href="http://www.cms.udel.edu/woce/modelling.html">http://www.cms.udel.edu/woce/modelling.html</a>	Model Results
<a href="http://www.ifremer.fr/sismer/sommaire.htm">http://www.ifremer.fr/sismer/sommaire.htm</a>	UOT Global DAC	<a href="http://www.access.digex.net/~woce/lindstromlist.html">http://www.access.digex.net/~woce/lindstromlist.html</a>	DPC CHAIRMAN'S SWOCE HOTLIST
<a href="http://www.ifremer.fr/sismer/sommaire.htm">http://www.ifremer.fr/sismer/sommaire.htm</a>	Surface Salinity DAC		
<a href="http://biudc.nbi.ac.uk/psmsl/woce.info.html">http://biudc.nbi.ac.uk/psmsl/woce.info.html</a>	WOCE Sea Level Centres		

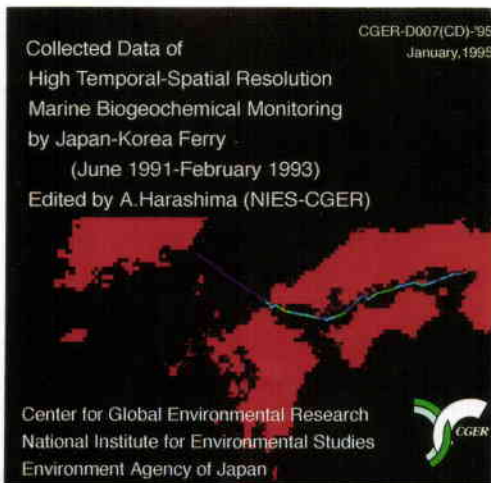
### これから開かれる会議・研修案内

会議・研修名	開催日時	場所
1. PICES 第4回総会	1995年10月16日~23日	青島、(中国)
2. 海洋環境モニタリング&データ管理ワークショップ (NOWPAP ワークショップ)	1995年12月5、6日	海上保安庁水路部
3. 第15回 IODE 会議	1996年1月23日~31日	アテネ、(ギリシャ)
4. WESTPAC 第3回サブコミッション	1996年2月	国連大学、(東京)
5. 第14回 WESTPAC データ管理研修	1995年10月16日~27日	海上保安庁水路部



## データセット紹介

- CD-ROM データ “Collected Data of High Temporal-Spatial Resolution Marine Biogeochemical Monitoring by Japan-Korea Ferry (June 1991-February 1993)”  
(日韓定期船による海洋環境の変質・変動長期モニタリングデータ)



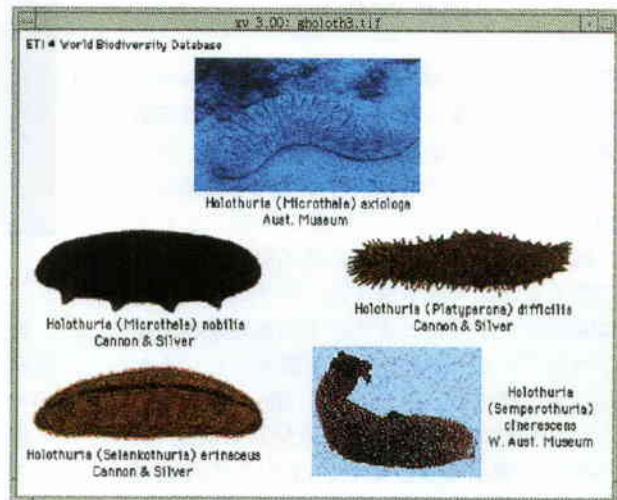
環境庁国立環境研究所地球環境研究センターでは、地球環境変動因子の解明と地球環境の監視を目的として地球環境モニタリング事業を推進しており、その一環として神戸と釜山を結ぶ定期船を利用して、海洋環境の変質と変動を1991年2月から1993年2月に亘り継続的に観測しているモニタリングのデータ（水温、塩分、その他の化学成分）をCD-ROMとしてとりまとめ、提供を開始しました。

このデータについての説明はCD-ROM添付の小冊子のほかに、詳細な説明が記述されている冊子も用意されています。詳しくはJODCまでお問い合わせ下さい。

- CD-ROM データ “North Australian Sea Cucumbers”  
(北オーストラリアのナマコ類)

オランダにあるETI (Expert-center for Taxonomic Identification: 国際分類同定専門家センター) では、World Biodiversity Database CD-ROM seriesの一つとして、「北オーストラリアのナマコ類」を作成しました。これには、北オーストラリアに生息するナマコ類約90種の絵(写真)とその説明がカード形式で収録されています。

このシリーズはETIが分類学の専門家の減少、後継者不足に対応するため、専門家以外の方が簡単に分類ができるためのマニュアル作成を目的としており、最終的には地球上のすべての生物について作成するそうです。詳しくはJODCまでお問い合わせ下さい。



## 海の相談室だより

### 臨時海の相談室を開設

水路部は、今年も海の旬間行事の一環として、東京港海上公園にある「船の科学館」で7月20日から7月31日までの12日間（開館時間＝平日：10時～17時、土・日曜：10時～18時30分）、水路協会の応援を得て延べ45名により、「臨時海の相談室」を開設しました。



臨時海の相談室風景

初日・二日目と雨にたたられ、又夏休み初めということも影響したのか、入場者数は低調気味にスタートしましたが、天候回復にしたがい日増しにその数も増し、今年は昨年実施した特別会場が他のイベントと重なったこともあり、展示スペースを縮小し、展示物品等（東京湾に関する海図・海の基本図、パソコンによる海に関するクイズ、ビデオによる水路業務の紹介、パンフ・リーフレット）も限定したにもかかわらず、昨年を若干上回る7,260名の入場者数（クイズ挑戦者1,056名・内全問正解者数191名：昨年入場者数6,925名、内クイズ挑戦者1,294名・全問正解者数181名）にのぼりました。

その要因として、来年から「海の日＝7月20日」が正式に国民の祝日となる前宣伝、ならびにこのイベントが一般の人々に浸透してきた現れと思われます。

### 花の女子高生が見学に訪れる

銚子市南小川町の県立銚子高校の自然科学クラブ女子生徒7名（クラブ顧問：平塚先生）一行が8月4日（午前中）同室を訪れました。

今回同室を訪れた面々は、理系進学希望の学生さんで、10年前、銚子沖を流れる黒潮を研究テーマに発足したクラブが銚子海上保安部所属の巡視船「かとり」の協力を得て放流した海流瓶が昨年3月ごろからハワイ、グアム、フィリピンから漂着海流瓶を取得したとの連絡が入りはじめ、同校では先輩達の意志を継ぎ、同クラブを復活させるべく、その手初めに夏休みを返上して「全球、とくに太平洋の海流・風に関する資料文献」等から整備しようということで、今回の訪問となりました。



訪れた高校生達

席上、生徒さんから活発な質問がなされ、相談室も暫くぶりの活気に溢れた時間を持つことができました。

主な質問は次のようなものでした。

- 1) 漂着になぜ10年もの歳月を要したのか？
- 2) 漂着場所がなぜ異なったのか？
- 3) 北半球と南半球の海流が異なっているのはなぜ？
- 4) 他に、漂流実験の事例があるか？  
また、漂流軌跡をまとめた報告書などがあるか？

## IOC刊行物・文書保管センターから

### 新刊刊行物の紹介



#### IOC 刊行物・文書保管センター文献目録 (6月刊行)

日本海洋データセンター(JODC)は、昭和48年から我が国におけるIOC刊行物・文書保管センターとしてIOCの刊行するテクニカルシリーズ、総会及び同執行理事会会議の要約、マニュアルアンドガイド、トレーニングレポート等の刊行物及び文書の保管管理を行なっています。

また、新着の文献についてはJODCニュースにより、全目録についてはJODCオンライン情報サービスにより関係者への通知を行なっています。

このたび、JODC創立30周年を迎えるにあたり、700冊以上あるこれらの全ての文献を紹介するため本目録を作成しました。

### 新しく受領した文献のリスト (1995年8月18日現在)

#### Report of Meetings of Experts and Equivalent Bodies

- No.95 IOC Editorial Board for the International Bathymetric Chart of the Western Indian Ocean, 1994
- No.96 IOC Group of Experts on the Global Sea Level Observing System (GLOSS), 1995
- No.97 Joint Meeting of GEMSI and GEEP Core Groups, 1993

#### Workshop Report

- No.104 Workshop on Integrated Coastal Management, 1994
- No.107 IOC-ICSU-NIO-NOAA Regional Workshop for Member States of the Indian Ocean-GODAR-III (Global Oceanographic Data Archeology and Rescue Project), 1994

#### Technical Paper in Marine Series

- No.66 Emerging technologies in biological sampling, 1993
- No.67 Calculation of new depth equations for expendable bathythermographs using a temperature-error-free method, 1994

#### GESAMP

- No.55 Biological Indicators and their Use in the Measurement of the Condition of the Marine Environment

#### Information etc.

- INF-1000 National Oceanographic Programme Australia, 1995
- INF-1001 National Oceanographic Programme Finland, 1995
- INF-1002 National Oceanographic Programme India, 1995
- INF-1003 National Oceanographic Programme Korea, 1995
- INF-1004 National Oceanographic Programme Turkey, 1995
- INF-1005 National Oceanographic Programme U.K., 1995
- INF-1006 National Oceanographic Programme U.S.A., 1995

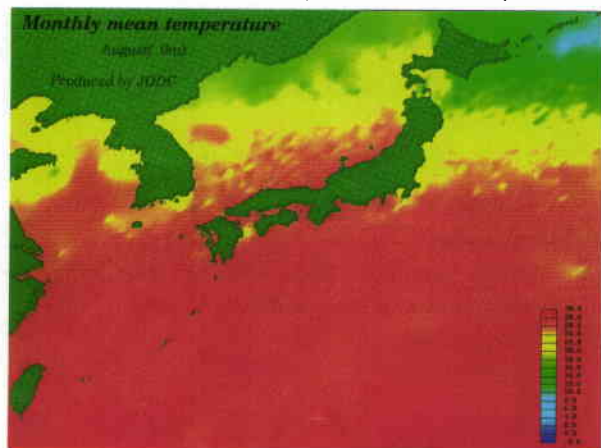
## Topics & Information

### ■ 30周年記念事業の概要

創立 30 周年を迎えた JODC では、その記念として、主に次のような事業等を実施しました。概要は次のとおりです。

#### (1) 「記念 CD-ROM」完成

前号 (50 号) で概要を紹介した「水温データセット」が先般完成しました。水温データは、

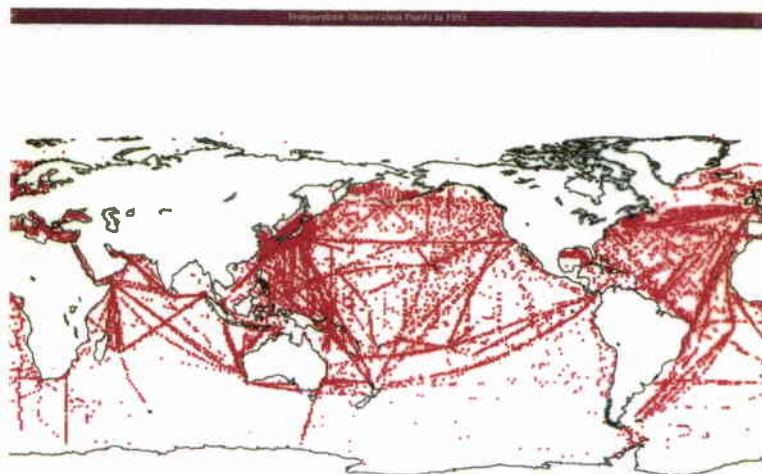


月平均水温統計図 (8月表面水温の例)

海洋を測るための尺度と言われており、地球環境問題の解明、地球温暖化問題・エルニーニョの解明、水産資源の動向、海流予測等の多様な分野に有効に活用されることを期待しながら、日頃から JODC へデータを提供していただいている国内外の関係機関へのフィードバックとして配付いたしました。

このデータセットには、JODC が国内外から収集した 1940 年～1993 年までの CTD、STD、XBT、MBT、DBT、AXBT 観測による標準層の水温値 (約 210 万点) 及び表示ソフトウェア並びにそれらのデータインベントリが記録されているほか、全データ全球測点図、年別全球測点図統計図 (過去 30 年の月別・1 度メッシュの北西太平洋統計図、0 m 及び 100 m) が表示できます。

JODC では、今後についても海流等の CD-ROM データセットを作成し、シリーズ化していく予定としています。



年別測点分布図 (1993年の例)

#### (おわび・訂正)

本 CD-ROM に収録されているフォーマット説明に次の誤りがありましたので、おわびし訂正致します。

1. DATE のバイト数 6 を 8
2. AIR PRESSURE のバイト数 4 を 3
3. AIR TEMP (D) のコラム 83 から 4 バイト
4. AIR TEMP (W) コラム 87、バイト数 4 を挿入
5. 水温データは 91 コラムから開始

## Topics & Information

### (2) 「JODC 要覧」の改版

この要覧は、JODC の業務や利用の方法等について、一般の方々に容易に理解して頂くことを目的として、関連事項をわかり易く取りまとめたパンフレットで、今般 4 年ぶりに改版いたしました。

今般の改版に際しましては、当初の改版計画を早めて、30 周年記念事業の一環として位置づけることとした経緯もあり、構成的には旧版(91 年版) と大きな差異はありませんが、今回は特に最新情報の掲載と一層見易く・分かり易くすることに留意して編集したものです。

JODC では、この要覧やその他の参考リーフレット等を活用して一層の PR 等に努め、名実ともに頼れる国立海洋データセンターとして皆様のご期待に応えたいと考えています。

### (3) 「記念懇親会」の開催

5 月 31 日(水)の夕刻、水路部において、創立 30 周年の祝賀会として、ささやかな懇親会を開催いたしました。



祝賀会風景

この種の祝賀会と云えば、日頃、ご指導・ご鞭撻を頂いている関係各位をご招待のうえ、盛大に取り行うのが通例ですが、諸般の事情もあり最終的には、ごく小規模な懇親会とさせて頂きましたことをお詫び申し上げます。

なお、当日の主な出席者は、奈須先生、第 4 代以降の JODC 所長、その他の OB、水路部幹部職員、現職員などの総勢約 60 名で、終始なごやかな雰囲気の中に閉会いたしました。

### ■ GOIN デモへ参加

GOIN 計画、同デモンストレーション計画及び JODC の取組みについては、前号(50 号)で既に紹介したところですが、6 月 6 日(火)に予定どおり日米の参加機関による日米合同デモンストレーションが盛大に行われ、日本側の一参加機関として JODC も参加しました。

このデモは、GOIN 計画を進めていく上で重要な意味を持つ通過点であり、個々の参加機関がこれまでに蓄積した成果を検証することはもとより、これを機に 2 年間の試行が開始され、その後定常ネットワークへ移行する計画となっているものです。

本号では、日米合同デモの概要のうち、日本側会場で実施した主な内容等について、ご紹介いたします。

#### (1) 開催日時、会場

平成 7 年 6 月 6 日 1300~2130

六本木ファーストビル地階、多目的イベントホール

#### (2) デモ参加機関

日本：9 省庁などの 15 機関

米国：3 省庁などの 9 機関

#### (3) 当日のスケジュール

第 1 部：1300~1830

ワークショップ、個別デモ

第 2 部：1945~2105

日米合同デモンストレーション  
：2105~2130、個別デモ

#### (4) 会場内の様子

会場内は、大きく二分割され、入口付近には各参加機関ごとに仕切られた個別デモ用ブースが、その奥部には大型受像機が設備された舞台付き合同デモ会場が設置されており、関係者及び見学者で満員の状況を呈していました。

#### (5) 個別デモの状況

各参加機関とも、会場内に用意された個々の

## Topics & Information

ブース内で、定められた時間を利用して、米国側の関係機関との間で個別デモを実施し、その内容・状況を多数の見学者へ積極的に説明する等、各機関とも活発な行動が多く見られました。

この間、JODC では米国の国立海洋データセンター (NODC) 及び国立地球物理データセンター (NGDC) とインターネットで結び、日米



JODC のブース

の海洋データセンターがサービスするデータベースの紹介とデータセンターから提供されたデータの利用例の紹介を行いました。

特に、データ交換を基本とした JODC システムは多くの見学者から注目されるなど、予想以上に活況を呈していました。

### (6) 日米合同デモの状況

当日のメインである合同デモは、以下のとおり進行されました。

#### イ 開会挨拶

米国海洋大気庁 (NOAA) 長官

#### ロ 日米政府代表者によるスピーチ

日本側：田中科学技術庁長官

米国側：ジョン・ギボンズ大統領補佐官

#### ハ 地球観測データ利用事例の紹介

(紹介者省略)

ここで、参加機関のシステム等を紹介

#### ニ 日米政府代表者による意見交換

#### ホ 閉会挨拶

科学技術庁政務次官

感想として、過去に類を見ないインターネットによる革新的な情報交換技術は、今後、我が国においても、急速に進展し、かつ定着するも

のと確信しました。

JODC においても、当然ながらこの状況を先取りし、かつ追い風として一層の業務の拡充を図ることとしています。

### ■ 図書館情報大学の夏季実習



7月3日から21日まで図書館情報大学の学生4名がJODCにおいて業務実習を行いました。

実習課題は、昨年の同

実習で作成された「海洋データ管理・検索システム (J-DARS) 操作説明書 Ver. 1.0」を J-DARS の機能拡張に伴い Ver. 2.0 へ改訂するというので、限られた期間のなか各学生とも積極的に課題に取り組んでいました。

実習の終わりには、JODC 職員に対し完成した操作説明書 Ver. 2.0 を使いその内容の説明等が行われました。

### ■ 国内海洋調査一覧刊行

国内の海洋調査機関によって今年度中に計画されている海洋調査と、昨年度の実施状況を取りまとめた標記刊行物が、刊行されました。

JODC では、平成7年1月より海底設置型観測機器等の設置状況に関する情報の管理業務を開始しており、これまでに JODC にお寄せいただいた15機関250件の設置状況も掲載されています。

また、この刊行物に掲載されている情報は、近い将来インターネット上でも閲覧が可能になる予定ですのでご期待下さい。

## J O D C 刊 行 物 一 覧

## 定期刊行物

誌 名	創刊年月日	刊行号数
JODC ニュース	1971年3月	No.1~No.50 (半年刊)
国内海洋調査一覧	1972年12月	No.1~No.26 (年刊)
RNODC Newsletter for WESTPAC	1982年3月	No.1~No.14 (年刊)
海洋調査報告一覧 (国内海洋調査機関の情報)	1984年3月	1975年版~1994年版
Data Report of KER (Phase II)	1988年3月	No.1~No.8 (年刊)
日中黒潮共同調査研究海洋環境図	1988年3月	No.1~No.7 (年刊)
RNODC ACTIVITY REPORT	1990年3月	No.1~No.6 (年刊)

## 既刊刊行物

誌 名	発行年月	誌 名	発行年月
海洋環境図 (外洋編—北西太平洋)	1975年3月	沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海東部)	1986年3月
国内海洋資料交換便覧 (第4版)	1978年12月	沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海西部)	1986年3月
海洋環境図 (外洋編—北西太平洋II)	1978年3月	日本近海波浪統計図表	1986年3月
海洋環境図 (海流編)	1979年3月	沿岸海のアトラス (瀬戸内海)	1986年3月
Data Report of KER (No.1~No.9)	1979年9月	日本近海海況図	1975年版 ~1991年版
Oceanographic Atlas of KER (No.1~No.9)	1980年3月	各層観測データカタログ	1989年3月
国内海洋調査船一覧	1981年3月	海洋地球物理データカタログ (改訂版)	1990年3月
Guide to CSK Data (Apr. 1965~Dec. 1977)	1981年3月	水深統合データカタログ	1990年3月
WESTPAC Data Management Guide	1982年3月	日本近海海流統計図 (改訂版)	1991年3月
海洋地質・地球物理データカタログ	1983年3月	JODC 要覧	1991年3月
日本近海海流統計図	1983年3月	CTD データ校正の手引き	1993年3月
水深データカタログ	1983年3月	日本海洋データセンター利用の手引き	1994年3月
実用塩分と海水状態方程式	1983年3月	国際海洋データ・情報交換マニュアル	1994年9月
WESTPAC データ管理ガイド	1983年8月	WOCE データハンドブック	1995年3月
潮汐調和定数カタログ	1984年1月	JODC 要覧 (改訂版)	1995年3月
海底地形図 (北西太平洋)	1984年3月	IOC 刊行物・文書保管センター 文献目録	1995年6月
沿岸海域海洋データカタログ (東京湾)	1984年3月		
実用塩分と国際海水状態方程式	1984年6月		
波浪データカタログ (測器観測)	1984年9月		
沿岸海域海洋データカタログ (伊勢湾・三河湾)	1985年3月		
日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国内編)	1985年3月		
潮流データカタログ	1985年3月		
沿岸海域海洋データカタログ (大阪湾)	1985年3月		
海洋情報便覧	1985年3月		
GF-3マニュアル (国際海洋データ交換用 IOC 汎用フォーマット)	1985年3月		
海流観測情報	1985年10月		
日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国外編)	1986年3月		

これらの刊行物は「海の相談室」で閲覧することができます。

また、余部のあるものについては提供できるものもありますので、「海の相談室」までお尋ね下さい。

表紙写真

気象庁の最新鋭海洋気象観測船「凌風丸」(Ⅲ世)

平成7年6月石川島播磨重工業(株)東京第一工場で竣工。

総トン数1,380トン、全長82メートル、航海速度14ノット、最大搭載人員60名。

マイクロ波式波浪計、総合海上気象観測装置等の各種高性能観測機器を搭載し、地球環境保全のために欠くことのできない多様な海洋観測に従事します。



「JODC ニュース No.51」

—1995年9月発行—

日本海洋データセンター

(JODC)

〒104 東京都中央区築地5-3-1

海上保安庁水路部

Tel : (03) 3541-4295 (JODC)

(03) 3541-4296 (海の相談室)

Fax : (03) 3545-2885

E-mail : jodc@osman.jhd.go.jp

(Internet)

JODC. TOKYO (JOIDES)